大豆（里のほほえみ）の播種時期が遅れた時の対応策について

令和元（2019）年７月４日
経営技術課技術指導班

今年は、６月７日の梅雨入り後、断続的な降雨の影響により大豆の播種作業が大幅に遅れています。一般に播種が遅延すると開花までの日数が短くなり、十分な栄養生長期間が確保されないため、生育量が少なくなり低収になります。ほ場の土壌水分や播種後の天候に留意し播種作業を行いましょう。播種時期が７月中旬以降になる場合は、以下の点に留意してください。

１　播種量を多くする

試験場の播種期と播種量に関する試験（品種：タチナガハ）によると、播種量5.5kgでは７月21日播きの収量は、７月７日播きに比べて58%でしたが、播種量6.9kgでは77%となりました（表１）。また、播種量5.5kgでは７月７日を起点に５日遅れると9%減収、10日遅れると24%減収になりましたが、播種量6.9kgでは５日遅れると4%減収、10日遅れでも10%減収ですみました（図１）。

したがって、播種時期が７月中旬以降になる場合は播種量を標準より1～2割程度多くします。

表１　播種時期別の生育・収量（栃木農試，2009年）

播種日	播種密度	播種量	開花期	成熟期	主茎長	株当たり粒数	子実重	同左標準比	百粒重
月.日	株/㎡	kg/10a	月.日	月.日	cm		kg/10a	%	g
6.20	16.7	5.5	7.30	10.15	79.0	54.5	256	75	34.3
	20.8	6.9	7.30	10.16	80.9	43.6	300	87	35.6
7.07	16.7	5.5	8.11	10.23	77.5	55.4	343	100	38.5
	20.8	6.9	8.11	10.22	80.4	49.7	321	94	35.8
7.21	16.7	5.5	8.23	10.28	49.3	43.0	199	58	33.5
	20.8	6.9	8.23	10.28	54.9	40.1	264	77	33.8

注）播種量は播種密度からの換算値（百粒重33.0gとして計算）

２　排水対策と種子消毒で出芽と初期生育を良くする

播種時期が遅れると生育量が少なくなるのは上記のとおりですが、湿害を受けるとさらに生育が不良になります。また、土壌水分が高いと種子が腐敗しやすく出芽が悪くなります。したがって、播種時期が７月中旬以降になる場合は、圃場周囲に明渠を設置したり、畝立て同時播種栽培により湿害を回避するとともに、必ず種子消毒（クルーザーMAXX）を行い、出芽数と初期生育の確保に努めます。

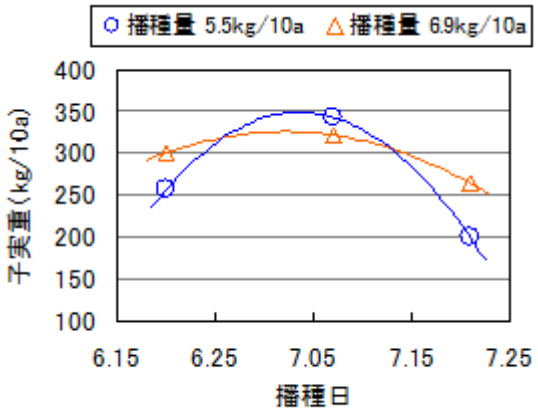

図１　播種日と収量の関係（栃木農試，2009年）

３　病害虫防除に留意

播種時期が大幅に遅れると、開花期や成熟期も遅れるので（表１）、通常に播種した時に比べて防除適期が後ろにズレます。したがって、播種時期が７月中旬以降になる場合は、大豆の生育ステージに合わせた防除計画を立てましょう。